HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	現代日中両言語における数量詞の意味・機能の対照研究
Author(s)	張, 瑩
Citation	研究論集, 22, 27（左）-43（左）
Issue Date	2023-01-31
DOI	https://doi.org/10.14943/rjgshhs.22.l27
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/87859
Type	departmental bulletin paper
File Information	05_rjgshhs_22_p027-044_l.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10.14943/rjgshhs.22.l 27

現代日中両言語における数量詞の意味・機能の対照研究

張　　瑩

要　旨

これまでの日本語の数量表現研究では，数量詞の意味・機能について多くの指摘がされており，数量詞は数量詞とその先行名詞との関係によって分類されている。一方，日中両言語における数量表現の対照研究では，両言語における数量表現の形式上の対応関係について主に議論されてきた。ところが，日本語でも中国語でも，名詞句と数量詞の結合のパターンや類別詞だけでなく，述語の表す動作の性質も数量詞の意味・機能に影響を与えると考えられるが，述語を視野に入れた数量表現研究は見当たらない。それに，日中両言語における数量表現を対照する際に，形式だけでなく，機能上の対応関係に関する議論が欠けている。

本稿では数量詞とその先行名詞との関係だけでなく，数量詞が述語のどのような面を修飾するかも考慮に入れ，日本語の数量詞の意味・機能を〈動作実現時の累積数量〉を表すものと，〈動作反復による累積数量〉を表すものと，〈動作量〉を表すもの，〈属性〉を表すものとの四種類に分類する。そして，述語が表す動作の反復性・完結性の有無と類別詞の種類が数量詞の意味・機能に影響を与えることを観察する。一方，中国語の数量詞の意味・機能は日本語と同様に四種類に分けられるが，述語が表す動作の反復性・完結性の有無と類別詞の種類による数量詞の意味・機能への影響の与え方が日本語の場合と異なるところがあることを主張する。また，機能の面に基づいて日中両言語における数量表現の対応関係を考察した結果，日本語の場合も中国語の場合も，数量詞が四種類の機能のうち，どの機能を表すのかは文型によっては判断できない場合がほとんどであるが，中国語の場合には〈動作量〉専用，〈属性〉専用の文型があるという点で日本語の場合と区別される。

1　はじめに

日本語の数量表現には（1）における下線部のような「名詞句＋格助詞＋数量詞」（以下 NCQ 型），「数量詞＋ノ＋名詞句＋格助詞」（以下 Q ノ NC 型）という二つのパターンがよく指摘されている。これまでの日本語の数量表現研究では，その数量詞の意味・機能について多くの指摘がされている。

（1）a. テーブルに本を 2 冊置く。　　NCQ 型
　　b. テーブルに 2 冊の本を置く。　　Q ノ NC 型
（2）a. 畑を 200 平方メートル耕す。　　NCQ 型　　加藤（2003：444）
　　b. 200 平方メートルの畑を耕す。　　Q ノ NC 型　　加藤（2003：444）

一方，日本語と中国語における数量表現の対照研究のほとんどが形式上の異同のみに注目したものである。例えば，日本語の「本を 3 冊」のような「名詞句＋格助詞＋数量詞」型の数量表現に対応する中国語の数量表現の構文パターンにはどのようなものがあるのかについての整理しか見当たらない。

以上から，下記の二つの問題点が指摘できる。

① 日本語でも中国語でも，名詞句と数量詞の結合のパターンや類別詞だけでなく，述語の表す動作の性質も数量詞の意味・機能に影響を与えると考えられるが，述語を視野に入れた数量表現研究が見当たらない。
② 日中両言語における数量表現を対照する際に，形式だけでなく，機能上の対応関係に関する議論が欠けている。

本稿は先行研究に基づき，日本語と中国語における数量詞の意味・機能の分類をさらに検討し，両者の異同の考察を目的とする。

2　日本語の数量表現

先ほど示した，用例を再掲する。（1a）と（1b）のような用例には意味の差が存在しないが，（2a）と（2b）のような用例には意味の差があると指摘されている。奥津（1983）はこの現象は数量詞による違いであると解釈し，（1b）の Q を「数量 Q」，（2b）の Q を「属性 Q」と呼んでいる。

（1）a. テーブルに本を2冊置く。　〈離散的認知〉
　　b. テーブルに2冊の本を置く。　〈集合的認知〉
（2）a. 畑を200平方メートル耕す。　加藤（2003：444）〈動作量〉
　　b. 200平方メートルの畑を耕す。　加藤（2003：444）〈属性〉

数量表現における先行名詞句と数量詞の関係について論じたのは加藤（2003）である。加藤（2003）は奥津（1983）のいう数量Qと属性Qの概念を踏襲し，数量詞と先行名詞句との関係によって，「いくつ存在するのか」という存在数量を表すものを存在数量詞とし（例えば，（1）における「2冊」），そうでないものを非存在数量詞としている（例えば，（2）における「200平方メートル」）。前者が奥津（1983）の数量Qに相当し，後者が奥津（1983）のいう属性Qに相当する。さらに，それぞれがNCQ型で用いられたのか，Qノ NC型で用いられたのかによって，数量詞の意味も変わってくると述べた。例えば，（1a）（1b）（2a）（2b）のそれぞれが〈離散的認知〉，〈集合的認知〉，〈動作量〉，〈属性〉を表すと論じた。

2.1　加藤（2003）の存在数量詞

下記の（3）は加藤（2003）によってNCQ型の数量詞が存在数量・離散的認知を表す場合に当てはまるが，そのような用例は反復性の有無によりさらに（3a）〈動作実現時の累積数量〉と（3b）〈動作反復による累積数量〉と二つの解釈に捉えられる。（3a）の場合は反復性を含意しない解釈で，「2冊の本を1度に置く」ことを表す。（3b）の場合は反復性を含意する解釈で，「本を1冊ずつ，2冊置く」ことを表す。

（3）テーブルに本を2冊置く。　a.〈動作実現時の累積数量〉／b.〈動作反復による累積数量〉

（4a）の場合における数量詞は，加藤（2003）の述べた〈集合的認知〉に相当し，（4b）のようなQノ NC型に書き換えても意味が変わらないが，（5）はQノ NC型に書き換えても〈集合的認知〉の意味にはなりえない。

（4）a. テーブルに本を2冊置く。　NCQ型　〈動作実現時の累積数量〉
（3a）の再掲
Qノ NC型に書換可能↓
　　b. テーブルに2冊の本を置く。　Qノ NC型　〈動作実現時の累積数量〉
（5）テーブルに本を2冊置く。　NCQ型　〈動作反復による累積数量〉
（3b）の再掲
Qノ NC型に書換不可

仁田（2002）は結果の副詞は「動きの実現した結果の局面を取り上げ，主体や対象の結果状態のありようについて言及したもの」と定義している。これを踏まえ，筆者は〈動作実現時の累積数量〉と〈動作反復による累積数量〉の場合の数量詞も累積の結果を表す副詞だと考える。例えば，(3a) も (3b) も，「2 冊」は「テーブルに本を置く」という動きが実現された際の，対象「本」の数量に関する実現のされ方を表すと考える。つまり，いずれの場合も，動作実現された時点で，その対象となった「本」の数は複数（= 2）ある。

筆者は，数量詞の意味・機能は述語とも関わっていると主張したい。ここでは，矢澤（1986）の反復表現の成立条件を論じた際に提出された完結性という概念を採用し，NCQ 型における動作の反復性，述語の完結性及び類別詞の制限の有無について考察する。その結果は表 1 の通りである。

表 1　NCQ 型における数量詞の意味機能と動作・述語との関係性 1

数量詞の意味機能	動作の反復性	動詞の完結性	類別詞の制限
動作実現時の累積数量	反復性無	完結性有	分類類別詞
動作反復による累積数量	反復性有	完結性有	分類類別詞
		完結性無	測定類別詞

NCQ 型における数量詞が〈動作実現時の累積数量〉と解釈できるのは「反復性無＋完結性有，かつ岩田（2007）のいう分類類別詞（個体の数を数える類別詞）を用いた場合」のみである。もし，動作の反復性が読み取れたことになると，数量詞が〈動作反復による累積数量〉を表すことになる。また，岩田（2007）のいう測定類別詞（「平方メートル，メートル，グラムように単位して連続体量を測る」類別詞）が用いられ，完結性を持たない述語動詞を修飾する場合は，動作に反復性が示された場合は，〈動作反復による累積数量〉を表す。例えば，下記の（6）〜（8）を見てみると，（6）は「2 冊の本を 1 度置く」という動作が表されており，その動作には反復性を持たない。それに，数量詞が分類類別詞の「本」を取っており，「置く」という完結性のある述語動詞を修飾しているため，（6）における数量詞は〈動作実現時の累積数量〉と解釈される。（7）は「本を 1 冊置く」という動作が 2 回行われることが表されており，反復性を示している。かつ（6）と同様に，数量詞が分類類別詞の「冊」を取っており，「置く」という完結性のある述語動詞を修飾しているため，（7）における数量詞は〈動作反復による累積数量〉と解釈される。（8）は「「Xkg の石を詰める」ことを複数回やって，合計で 15 kg の石を詰めたことを表している。この場合，詰められた石は複数ある」ことが表されており，反復性を示している。そして，数量詞が測定類別詞の「kg」を取っており，「詰める」のような完結性の持たない述語動詞を修飾しているため，（8）における数量詞は〈動作反復による累積数量〉と解釈される。

（6）テーブルに本を2冊置く。　〈動作実現時の累積数量〉　（3a）の再掲
　　分類類別詞　　反復性－完結性＋
（7）テーブルに本を2冊置く。　〈動作反復による累積数量〉（3b）の再掲
　　分類類別詞　　反復性＋完結性＋

（8）石を15**kg**詰めた。　〈動作反復による累積数量〉
　　測定類別詞　　反復性＋完結性－

2.2　非存在数量詞

加藤（2003）のいう非存在数量詞・〈動作量〉の例は（9）のような用例以外にも，(10)～(12)が挙げられる。

（9）畑を200平方メートル耕す。　（2b）の再掲　反復性－　完結性－
(10) 山を100メートル登った。　反復性－　完結性－
(11) ピサの斜塔は1950年よりも5度程傾いている。（矢澤　1985：97）
　　反復性－　完結性－
(12) 車が3mスリップした。　（矢澤　1985：97）
　　反復性－　完結性－

筆者は〈動作量〉を表す数量詞は仁田（2002）でいう様態の副詞の一種と見なし，動きそのものの展開過程の局面に内属する量的側面を取り出したものとする。

（9）～(12) に示したように，NCQ型における数量詞が「耕す」「登る」などのような完結性を持たない述語を修飾する際，動作は反復性を示さないこともある。すなわち，（9）～(12) はそれぞれ「X平方メートルの畑を耕す」こと，「Xメートルの山を登る」こと，「(度数が) X度傾く」こと，「Xmの距離をスリップする」ことの繰り返しが表されているのではない。（9）～(12) における「畑を耕す」「山を登る」「傾く」「スリップする」は1回で行われる，ひとまとまりの動作である。この場合，義務的に測定類別詞が取られ，数量詞が〈動作量〉と解釈される。

なお，(13)～(15) のように，測定類別詞が用いられた数量詞が完結性を持つ述語を修飾する場合は，当該数量表現が反復性を示せなくなり，非文となる。

(13) *雅美は勉強部屋を6畳持っている。　（加藤　2003：446）反復性？　完結性＋
(14) *ビルを159m建てる。　（加藤　2003：446）反復性？　完結性＋
(15) *石を15kg投げた。　反復性？　完結性＋

例えば，(15) が非文となるのは，〈動作実現時の累積数量〉，〈動作反復による累積数量〉，〈動作量〉のいずれの解釈と捉えることもできないためである。重量という切れ目のない単位を表す「15 kg」が，反復性の示さない「投げる」という動作を修飾すると，「15 kg」は 1 個の石の重量と解釈されなければならない。そうすると，「15 kg」は累積数量と捉えられなくなり，(15) を〈動作実現時の累積数量〉と解釈できない。同じ理由で，「15 kg」は「動きそのものの展開過程の局面に内属する量的側面を取り出す」ものでもありえず，〈動作量〉とも解釈できない。そして，(15) を〈動作反復による累積数量〉と解釈できないというのは，「石を 1 kg 投げることを 15 回行った」と解釈できる文脈を示していないためである。

だが，例えば，(16) で示したように，(15) における「投げた」を「詰めた」に置き換えれば，文が自然になる。(16) は「石を少しずつ詰める」ことを繰り返して，最終的に「15 kg 詰めた」という意味を表しており，「15 kg」は〈動作反復による累積数量〉を提示している。

(16) 石を 15 kg 詰めた。　　(8) の再掲　　反復性＋完結性－

また，加藤 (2003) の指摘したように，数量詞が〈動作量〉を表す NCQ 型文を Q ノ NC 型に変えてしまうと，数量詞が〈属性〉を表すことになる。筆者は〈属性〉を表すものは数量詞というより，決定詞の働きをするものだと考える。

〈累積数量〉とは違って，〈動作量〉は結果を表さない。結果構文の結果述語のテストフレームでテストすると分かる。(18)～(21) のような〈累積数量〉の場合は (17) のテストフレームに通るが，(22)～(25) のような〈動作量〉の場合は (17) に通らない。

(17) [X が Y を＋結果副詞＋V]⇒[X が Y をした結果，Y が＋結果副詞＋だ/になった]
(仁田　2002：51)

〈累積数量〉

(18) テーブルに本を 2 冊置く。
⇒テーブルに本を置いた結果，(そこの) 本が 2 冊となった。

(19) スロットに 100 円玉を 10 個入れた。
⇒スロットに 100 円玉を入れた結果，(そこの) 100 円玉が 10 個となった。

(20) 石を 3 個投げた。
⇒(そこに) 石を投げた結果，(そこの) 石が 3 個となった。

(21) 石を 15 kg 詰めた。
⇒(そこに) 石を詰めた結果，(そこの) 石が 15 kg となった。

〈動作量〉

（22）畑を 200 平方メートル耕す。

⇒*畑を耕した結果，（そこの）畑が 200 平方メートルとなった。

（23）山を 100 メートル登った。

⇒*山を登った結果，（そこの）山が 100 メートルとなった。

（24）ピサの斜塔は 1950 年よりも 5 度程傾いている。

⇒*ピサの斜塔が傾いた結果，（そこの）ピサの斜塔が 1950 年よりも 5 度程となった。

（25）車が 3 m スリップした。

⇒*車がスリップした結果，（そこの）車が 3 m となった。

（18）～（21）のような〈累積数量〉の場合は，数量詞の表す数量が先行詞の表すモノの総量で，数量詞と先行詞は同格だと考えられるが，（22）～（25）のような〈動作量〉の場合は，数量詞の表す量は動作・作用が行った分の量である。したがって，この場合の先行名詞は 1 つの個体を表す。（22）を例としていえば，（22）における「200 平方メートル」は「耕した畑」の量を表しており，実際の「畑」の総量は「200 平方メートル」以上ある。「畑」が複数あるわけではなく，1 つしかないと解される。

以上により，日本語における数量詞（/決定詞）の意味機能と動作・述語との関係性をまとめて表 2 で示す。

表 2　日本語における数量詞（/決定詞）の意味機能と動作・述語との関係性

数量詞の意味機能	動作の反復性	動詞の完結性	類別詞の制限	文型
動作実現時の累積数量	反復性無	完結性有	分類類別詞	NCQ 型/Q ノ NC 型
動作反復による累積数量	反復性有	完結性有	分類類別詞	NCQ 型
		完結性無	測定類別詞	
動作量	反復性無	完結性無	無	NCQ 型
非文	反復性？	完結性有	測定類別詞	NCQ 型

3　中国語の数量表現

3.1　考察対象

陳（2007）は中国語の数量表現について，下記の（26）[1] を挙げた。

[1]　日本語訳は筆者による翻訳。以下同様。

（26）a. 买　　了　　三本　　书。　　vqn 型
買う　［完了］　三冊　　本
（本を三冊買った。）

b. *书　　买　　了　　三本。　　nvq 型
本　　買う　［完了］　三冊
（本は三冊買った。）

c. *买　　了　　书　　三本。　　vnq 型
買う　［完了］　本　　三冊
（本を三冊買った。）

d. *三本　　书　　买　　了。　　qnv 型
三冊　　本　　買う　［完了］
（三冊の本を買った。）

陳（2007：186）

陳（2007）によれば，（26b）～（26d）は「そのままでは少し落ち着きが悪い」と述べ，さらに，下記の（26b）’～（26d）’を例として挙げ，中国語の nvq 型，vnq 型，qnv 型は「他の文を連続させて，物事の対比や計算など」を表す場合にはよく使われるという。

（26b）’ 书　　买　　了　　三本，　　笔　　买　　了　　两枝。（対比）nvq 型
本　　買う　［完了］　三冊　　ペン　　買う　［完了］　二本
（本は三冊，ペンは二本買った。）

（26c）’ 买　　了　　书　　三本，　　笔　　两枝。　　（計算）vnq 型
買う　［完了］　本　　三冊　　ペン　　二本
（本は三冊，ペンは二本買った。）

（26d）’ 三本　　书　　买　　了，　　其他　　都　　忘　　了。　　qnv 型
三冊　　本　　買う　［完了］　他　　すべて　忘れる　［完了］
（三冊の本は買ったが，他のを買うのを忘れた。）

陳（2007：187）

陳（2007）のこの指摘の通りに，上記の（26b）における「书」，（26c）における「书」，（26d）における「三本书」は，（26a）における「书」「三本书」が主題化され，NP 移動が行われたものだと考えられよう。そのため，（26a）と（26b）～（26d）とは焦点が当たっているか否か，どこに焦点が当たっているかにおいては差はあるが，数量表現としての構造的差異はないと考えられる。したがって，本稿では，（26b）～（26d）のような nvq 型，vnq 型，qnv 型を，vqn 型の派生と

考え，この四種類をまとめて，「vqn 型」と称する。

さらに，山口（2004）は（26b）～（26d）以外に，（27）のような移動も生起できると言及している。しかし，後に述べるように，（27a）における数量詞は vqn 型と異なる意味機能をしていると考えられる。また，（27b）のような“把”の使われたものも，焦点の当たっているところが違うだけで，本稿では“把”の含まれるすべての文型を考察対象としない。

（27）a. 他　　烧　　书，　　烧　　了　　三本。
彼　　燃やす　　本　　燃やす　　[完了]　　三冊
（彼は本を 3 冊燃やした。）
b. 他　　把　　书　　烧　　了　　三本。
彼　　を　　本　　燃やす　　[完了]　　三冊
（彼は本を 3 冊燃やした。）
c. 他　　书　　烧　　了　　三本。
彼　　本　　燃やす　　[完了]　　三冊
（彼は本を 3 冊燃やした。）
d. 书，　　他　　烧　　了　　三本。
本　　彼　　燃やす　　[完了]　　三冊
（本を彼は 3 冊燃やした。）

山口（2004：122）

q 的 n 型に言及したのは奥津（1986）である。奥津（1986）は（28）（29）[2] のような用例を挙げ，（28a）における「一二階」，（29a）における「一〇〇日元」は属性 Q で，「的」が必要であるのに対して，（28b）における「一二階」，（29b）における「一〇〇日元」は数量 Q で，「的」がとれないのであると述べている。洪（2008），范（2013）も q 的 n 型に対して奥津（1986）と同じ観点を持つ。

（28）a. 他　　登上　　了　　一二階的　　階梯。
彼　　登り上がる　[完了]　　十二階の　　階段
（彼は十二階建ての階段を登った。）
b. 他　　登上　　了　　一二階　　階梯。

[2] （28）（29）に付け加えた日本語訳は奥津（1986）の観点に従った翻訳である。次にも説明するが，筆者は（28a）は「彼は階段を十二段登った」と，（29a）は「切手を 100 円分買った」と理解するべきだと考える。

彼　　登り上がる　[完了]　　十二階　　階段
（彼は階段を十二段登った。）

（奥津　1986：76）

（29）a. 我　　買　　了　　一〇〇日元的　　郵票。
私　　買う　　[完了]　　一〇〇円の　　切手
（私は一〇〇円の切手を買った。）

b. 我　　買　　了　　一〇〇日元　　郵票。
私　　買う　　[完了]　　一〇〇円　　切手
（私は切手を一〇〇円分買った。）

（奥津　1986：77）

しかし，（28a）における「一二階」，（29a）における「一〇〇日元」は属性 Q とは捉えられないと思われる。中国語の場合には，不定単数名詞に不定標識として数量詞を義務的に付くことがよく知られている。（30a）（30b）に示されるように「一二階の階段を登った」「一〇〇円の切手を買った」を表したい場合は，それぞれに「一层」「一张」を入れなければならない。この（28a）（29a）は〈動作量〉と解釈されるのが妥当であろう。

（29b）における「一〇〇日元」は数量 Q，つまり，存在数量を表すものと認める。さらに（29b）を，「X 円分ずつの切手を，合わせて 100 円分を一度に買った」と捉えた場合は，〈動作実現時の累積数量〉を表し，「切手を X 円分ずつ，合わせて 100 円分買った」と捉えた場合は，〈動作反復による累積数量〉を表すと区別できる。

（30）a. 他　　登上　　了　　(一) 层　　一二階的　　階梯。
彼　　登り上がる　[完了]　　一本　　十二階の　　階段
（彼は十二階建ての階段を登った。）

b. 我　　买　　了　　(一) 张　　100 日元的　　邮票。
私　　買う　　[完了]　　一枚　　一〇〇円の　　切手
（私は切手を一〇〇円分買った。）

以上により，本稿で検討範囲に入れる文型を下記の（31）のように整理する。

（31）a. 他　　装　　了　　15 kg　　石头。　　vqn 型
彼　　詰める　　[完了]　　15 kg　　石
（彼は石を 15 kg 詰めた。）

b. 他　　装　　了　　15 kg 的　　石头。　　q 的 n 型

彼　詰める　［完了］　15 kg の　石

（彼は石を 15 kg 詰めた。）

c. 他　装　石头　装　了　15 kg。　vnv 了 q 型

彼　詰める　石　詰める　［完了］　15 kg

（彼は石を 15 kg 詰めた。）

d. 他　装　了　（一）块　15 kg 的　石头。　cq 的 n 型[3]

彼　詰める　［完了］　一つ　15 kg の　石

（彼は 15 kg の重さをした石を詰めた。）

3.2　中国語における数量表現に対する考察

本節では，中国語の数量表現について，２節で整理した日本語の数量表現における意味機能に基づいて考察を行う。

3.2.1　累積数量

まず，中国語の vqn 型における数量詞は〈累積数量〉を表す。下記の（32）～（34）と（35）～（37）との比較に示されるように，日本語の NCQ 型と同じように，中国語の vqn 型も，分類類別詞の用いられた数量詞が完結性を持つ述語を修飾する場合，〈累積数量〉と捉えられる。さらに，動作の反復性の有無によって，（35）のような〈動作実現時の累積数量〉を表すものと，（36）のような〈動作反復による累積数量〉を表すものに分けられる。また，（37）のように，「反復性有＋完結性無」かつ測定類別詞が用いられた場合も日本語と同様に，数量詞が〈動作反復による累積数量〉を表す。

【日本語における NCQ 型】

（32）彼女は子供を 2 人生んだ。　〈動作実現時の累積数量〉

分類類別詞　反復性－　完結性＋

（「２人の子供を１度に生んだ」と解釈した場合）

（33）彼女は子供を 2 人生んだ。　〈動作反復による累積数量〉

分類類別詞　反復性＋　完結性＋

（「子供を一人ずつ，２人生んだ」と解釈した場合）

（34）石を 15 **kg** 詰めた。　〈動作反復による累積数量〉

測定類別詞　反復性＋　完結性－

[3] c は類別詞ことを表す。

【中国語における vqn 型】

（35）她　　生　　了　　2个　　孩子。　　〈動作実現時の累積数量〉
彼女　生む　［完了］　2人　　子供
（彼女は子供を 2 人生んだ。）（「2 人の子供を 1 度に生んだ」と解釈した場合）
分類類別詞　反復性－　完結性＋
「2 人の子供を 1 度に生んだ」と解釈した場合

（36）她　　生　　了　　2个　　孩子。　　〈動作反復による累積数量〉
彼女　生む　［完了］　2人　　子供
（彼女は子供を 2 人生んだ。）（「子供を一人ずつ，2 人生んだ」と解釈した場合）
分類類別詞　反復性＋　完結性＋

（37）他　　装　　了　　15 kg　　石头。　　〈動作反復による累積数量〉
彼　詰める　［完了］　15 kg　　石
（彼は石を 15 kg 詰めた。）
測定類別詞　反復性＋　完結性－

ところが，下記の（38）・（39）と（40）・（41）との比較で分かるように，日本語の NCQ 型と異なり，vqn 型は完結性の持つ述語動詞と測定類別詞と併用しても，反復性を示すことができ，非文とならない。

【日本語における NCQ 型】

（38）*彼は石を 15 kg 投げた。　　測定類別詞　反復性＋　完結性＋
（39）*りんごを 30 元買った。　　測定類別詞　反復性＋　完結性＋

【中国語における vqn 型】

（40）他　　扔　　了　　15 kg　　石头。　　〈動作反復による累積数量〉
彼　投げる　［完了］　15 kg　　石
（彼は 15 kg の石を投げた。）
測定類別詞　反復性＋完結性＋

（41）我　　买　　了　　30 块钱　　苹果。　　〈動作反復による累積数量〉
私　買う　［完了］　30 元　　りんご
（私は 30 元のりんごを買った。）
測定類別詞　反復性＋　完結性＋

3.2.2　動作量

（42）・（43）と（44）・（45）との比較に示されるように，vqn 型は日本語の NCQ 型と同じように，反復性と完結性との両方とも持たない場合は〈動作量〉を表すことができる。

【日本語における NCQ 型】

（42）畑を 200 平方メートル耕す。　〈動作量〉

反復性－　完結性－

（43）彼女は本を 200 ページ読んだ。　〈動作量〉

反復性－　完結性－

【中国語における vqn 型】

（44）耕　了　200 平米　地。　〈動作量〉

耕す　［完了］　200 平方メートル　畑

（畑を 200 平方メートル耕した。）

反復性－　完結性－

（45）她　看　了　200 页　书。　〈動作量〉

彼女　読む　［完了］200 ページ　本

（彼女は本を 200 ページ読んだ。）

反復性－　完結性－

日本語は〈動作量〉を表せるのは，（42）・（43）のような NCQ 型しかない。それに対して，中国語の場合は vqn 型以外に，q 的 n 型と vnv 了 q 型も〈動作量〉を表す。（46）（47）のような，述語動詞に完結性を持たない，かつ測定類別詞が用いられた場合のみ，q 的 n 型における数量詞が〈動作量〉を表せる。（48）のような述語動詞に完結性を持つ，かつ分類類別詞が用いられた q 的 n 型か，（49）のような述語動詞に完結性を持たない，かつ測定類別詞が用いられた q 的 n 型には不自然さを覚える。すなわち，q 的 n 型は〈動作量〉しか表せない。

（46）耕　了　200 平米的　地。　q 的 n 型　〈動作量〉

耕す　［完了］　200 平方メートルの　畑

測定類別詞　反復性－　完結性－

＝耕　了　200 平米　地。　vqn 型　〈動作量〉

耕す　［完了］　200 平方メートル　畑

（畑を 200 平方メートル耕した。）

（47）他　　开　　了　　3 个小时的　　车。　q 的 n 型　〈動作量〉
彼　運転する　［完了］　3 時間の　　車
測定類別詞　反復性－　完結性－
＝他　　开　　了　　3 个小时　　车。　vqn 型　〈動作量〉
彼　運転する　［完了］　3 時間　　車
（彼は車を 3 時間運転した。）

（48）？？？她　　生　　了　　2 个的　　孩子。　q 的 n 型
彼女　　生む　　［完了］　2 人の　　子供
分類類別詞　反復性？　完結性＋

（49）？？装　　了　　15 kg 的　石头。　　q 的 n 型
詰める　　［完了］　15 kg の　　石
測定類別詞　反復性？　完結性－

同じことは，vnv 了 q 型にも言える。（50）のような述語動詞に完結性を持つ，かつ分類類別詞が用いられた vnv 了 q 型か，（51）のような述語動詞に完結性を持たない，かつ測定類別詞が用いられた vnv 了 q 型には不自然さを覚える。すなわち，vnv 了 q 型も〈動作量〉しか表せない。（ただし，（49）と（51）は文脈により，〈動作量〉と解釈出来る場合は自然である。）

（50）？？？她　　生　　孩子　　生　　了　　2 个。　vnv 了 q 型
彼女　　生む　　子供　　生む　　［完了］　2 人
分類類別詞　反復性？　完結性＋

（51）？？他　　装　　石头　　装　　了　　15 kg。　vnv 了 q 型
彼　　詰める　　石　　詰める　　［完了］　15 kg
測定類別詞　反復性？　完結性－

3.2.3　属性

日本語では，〈属性〉は Q ノ NC 型で表す。しかし，上でも述べたように，Q ノ NC 型は（52）のような〈属性〉だけでなく，（53）のように〈動作実現時の累積数量〉を表す場合もある。日本語の Q ノ NC 型は中国語の q 的 n 型とは形式上では類似しているが，機能面からみると両者は全く異なる文型となっている。

【日本語における Q ノ NC 型】

（52）200 平方メートルの畑を耕す。　Q ノ NC 型　（2b）の再掲
（53）テーブルに 2 冊の本を置く。　Q ノ NC 型　（1b）の再掲

一方，中国語の場合は〈属性〉は cq 的 n 型でしか表せない。cq 的 n 型が使われた場合，数量詞と先行名詞に修飾・被修飾の関係さえ成り立てば，述語の完結性及び類別詞の種類は一切数量詞の解釈に影響を与えない。3.1 でも触れたが，〈属性〉専用の cq 的 n 型と〈動作量〉専用の q 的 n 型は似ているが，不定標識としての数量詞があるかないかで，両者の使い分けがはっきりとしている。

【中国語における cq 的 n 型】

（54）他　　装　　了　　（一）块　15 kg 的　　石头。〈属性〉（31d）の再掲
彼　　詰める　　[完了]　　一つ　　15 kg の　　石
（彼は 15 kg の重さをした石を詰めた。）

（55）耕　　了　　（一）块　　200 平米的　　地　　〈属性〉
耕す　[完了]　　一面　　200 平方メートルの　　畑
（200 平方メートルの面積をした畑を耕した。）

（56）我　　买　　了　　（一）个　30 块钱的　　苹果。　　〈属性〉
私　　買う　　[完了]　　一つ　　30 元の　　りんご
（私は 30 元するりんごを買った。）

【中国語における q 的 n 型】

（57）他　　装　　了　　15 kg 的　　石头。　〈動作量〉
彼　　詰める　　[完了]　　15 kg の　　石
（彼は石を 15 kg 詰めた。）

（58）耕　　了　　200 平米的　　地。　〈動作量〉　（46）の再掲
耕す　[完了]　　200 平方メートルの　　畑
（畑を 200 平方メートル耕した。）

（59）我　　买　　了　　30 块钱的　　苹果。　〈動作量〉
私　　買う　　[完了]　　30 元の　　りんご
（私は 30 元のりんごを買った。）

以下，中国語における数量詞（/決定詞）の意味機能と動作・述語との関係性を表 3 のように整理できる。

表 3　中国語における数量詞（/決定詞）の意味機能と動作・述語との関係性

数量詞(/決定詞)の意味機能	動作の反復性	動詞の完結性	類別詞の制限	文型
動作実現時の累積数量	反復性無	完結性有	分類類別詞	vqn 型
動作反復による累積数量	反復性有	完結性有	無	vqn 型
		完結性無	測定類別詞	
動作量	反復性無	完結性無	無	vqn 型
	反復性無	完結性無	測定類別詞	q 的 n 型
	−	−	−	vnv 了 q 型
非文	反復性？	完結性有	分類類別詞	q 的 n 型/
	反復性？	完結性無	測定類別詞	vnv 了 q 型
属性	−	−	−	cq 的 n 型

4　おわりに

本稿では日本語と中国語における数量詞の意味・機能の分類を考察してきた。これまで見てきたように，中国語の数量詞の意味・機能は日本語と同様に，動作実現時の累積数量，動作反復による累積数量，動作量の三種類に分けられる。日本語の NCQ 型はその数量詞が動作実現時の累積数量，動作反復による累積数量，動作量の三つとも表せるという点から，中国語の vqn 型と一番近いと言える。だが，本稿で議論したように，中国語の vqn 型は（40）「他扔了 15 kg 石头」のような，完結性の持つ述語動詞と測定類別詞と併用しても，反復性を示すことができ，非文とならない場合もある点が，日本語の NCQ 型と異なっている。また，中国語の場合には，〈動作量〉専用，〈属性〉専用の文型があるということも特徴的である。特に，中国語の〈属性〉専用の cq 的 n 型を日本語の Q ノ NC 型と混同して考察や分析を行うのは不適切だと思われる。

（ちょう　えい・人文学専攻）

5　参考文献

岩田一成（2007）『日本語数量詞の諸相：数量詞の位置と意味の関係を中心に』大阪大学大学院言語文化研究科博士学位論文

奥津敬一郎（1983）「数量詞移動再論」『人文学報』160

————（1986）「日中対照数量表現」『日本語学』８月号，pp.70-78.

加藤重広（2003）『日本語修飾構造の語用論的研究』ひつじ書房.

仁田義雄（2002）『副詞的表現の諸相』ひつじ書房.

矢澤真人（1985）「連用修飾成分の位置に出現する数量詞について」『学習院女子短期大学紀要』23,

pp.96-112.
――――（1986）「反復の連用修飾成分 ――「動詞句の素性と反復表現の構文論的考察」試論 ――」『学習院女子短期大学国語国文論集』第 15 号.
陳力衛（2007）「数量表現における中日両国語の対照研究」『日中対照言語学研究論文集：中国語からみた日本語の特徴，日本語からみた中国語の特徴』pp.185-202.
山口直人（2004）「中国語の存在文における遊離数量詞」『語学教育研究論叢』第 21 号，pp.115-130.
洪雅琪（2008）『現代日中両言語における数量詞使用の対照研究 ―― テキスト分析を通して ――』東北大学大学院国際文化研究科博士学位論文
范喜春（2013）「日本語の NQC 型数量表現に対応する中国語の数量表現 ―― 形式と意味の観点から ――」『宇都宮大学国際学部研究論集』第 35 号，151-162.